

工業会活動

2024国際航空宇宙展（JA2024）報告

2024国際航空宇宙展（JA2024）が、10月16日（水）～10月19日（土）に東京ビッグサイト西展示棟全館で開催された。展示会としてはJA2018から6年振り、パブリックデーについてはJA2016以来8年振りの開催であり、1966年の第1回から数えて16回目を迎えた。もともと第16回JAは、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを避け、2021年の開催が予定されていたが、新型コロナ感染拡大の影響を受けて見直され2024年の開催となった。

今回JAとしては初めて展示会のテーマを設定した。メインテーマは「空宙（そら）で織りなす、広がる未来。」とし、航空・宇宙・防衛の製造・運航・整備などの分野に加え、新分野としてAAM（Advanced Air Mobility：次世代航空モビリティ）・脱炭素・宇宙ビジネスなどの幅広い分野にすそ野を拡げて出展・来場を募集、これにより新たなビジネス機会を提供すると共に、新型コロナの打撃からの力強い回復と成長、新分野を含めた航空宇宙産業の広がる未来を、若者を含めた幅広い人たちにアピールした。JA2024のコンテンツについては、11月号の「2024国際航空宇宙展（JA2024）開催速報」や「JA News」でも紹介しているので併せて参照頂きたい。

1. 展示規模

27か国・地域、685社・団体（共同出展含む）、1,157小間の出展があった。

業界での売上高世界トップ100に位置付けられるメジャー企業の約3割が前回同様に出展、海外からの出展面積も3割を占め、日本の航空宇宙産業の着実な国際化、航空宇宙産業の拡大と多様化を表すにふさわしい展示会となった。

2. 来場者数

4日間の会期中に67か国・地域（日本を除く）から37,168人の来場があった。

2024年は航空自衛隊の創設70周年の節目にあたり、航空自衛隊のブース出展と共に海外各国から防衛・安全保障に携わる方々が初日に来場され、開会式、プレビューアワー、オープニング・レセプションに出席を頂いた。

JA2024来場者数（確定）

日付	天気	種別	入場者数
10月16日（水）	晴れのち曇り	トレードデー	7,728
10月17日（木）	曇り	トレードデー	10,152
10月18日（金）	曇り	トレードデー	9,732
10月19日（土）	晴れ	トレード・パブリックデー	9,556
合計			37,168

3. B to B ミーティング

実績のあるabe社のシステムにより事前にマッチングをしたB to Bミーティングの結果は、参加企業数187社、商談件数 1572件、参加 15か国・地域となり、JA2018に比べ企業数1.4倍、商談件数1.1倍という盛況ぶりだった。

4. 公式行事

初日10月16日（水）午前中に、公式行事として開会式、プレビューアワー（招待者、プレス対象）、オープニング・レセプションを行った。（概要は11月号参照）

開会式にて城内内閣府特命担当大臣より英語でのスピーチによるご挨拶をいただいた。以下に内容（仮訳）を紹介する。

『城内宇宙政策担当大臣 開会式の御挨拶』

内閣府特命担当大臣（クールジャパン戦略、知的財産戦略、科学技術政策、宇宙政策、経済安全保障）、経済安全保障担当

城内 実氏



このたび、宇宙政策担当大臣を拝命いたしました城内実です。本日は、2024国際航空宇宙展の開催、誠にありがとうございます。開会に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

宇宙技術は、人々に夢や希望を与えるフロンティアであるとともに、私たちの経済や社会を支える基盤となっています。

年始に発生した能登半島地震と先日の同地域の豪雨については、被災された皆様に対し、お見舞いを申し上げるとともに、政府として一日も早い復旧、復興を図るために全力を挙げてまいる所存です。能登半島地震の際には、「だいち2号」（ALOS-2）のデータをはじめとする政府衛星、さらには、民間企業の衛星画像データが、被災状況の把握に活用されたと聞いております。また、豪雨による浸水被害領域の把握にも衛星画像データが活用されるようになっております。

災害大国とも言える我が国にとって、宇宙システムを活用した減災・防災は、今後一層、重要になってくると考えており、活用を進めてまいります。

また、安全保障分野においては、昨年我が国として初めて策定した「宇宙安全保障構想」を進めてまいります。

特に近年は、情報収集や通信、測位といっ

た宇宙システムを効果的に活用すること、さらには、宇宙状況把握（Space Situational Awareness、SSA）と呼ばれる、人工衛星やデブリなどを日常的に監視し状況を適切に把握することを通じて、我が国の宇宙空間のインフラや資産を守る活動が重要になっています。このため、航空自衛隊の宇宙作戦群から民間企業に対して、他の宇宙物体と人工衛星の衝突を回避するための、SSA情報を提供する取組が、昨年からは開始されたところです。また、宇宙分野での同盟国・同志国との協力関係の強化も進めています。

安全保障分野における我が国の宇宙技術の利用が急拡大していく中で、その実現の基盤は、本航空宇宙展の出展企業の皆様をはじめとする、我が国の宇宙企業が培ってこられた高い技術力と経験にありますので、ご貢献に深く感謝を申し上げる次第です。

さて、昨年度から本年度のここまでを概観いたしますと、苦節の末のH3ロケットの連続打上げ成功や、ムーンスナイパーとも言われたSLIMの月面へのピンポイント着陸の成功に国民の関心が集まりました。民間においても、アイスペース社やスペースワン社の果敢な挑戦、能動的な宇宙デブリ除去の実現に向けたアストロスケール社の技術実証の成功など、我が国の宇宙活動が大きく前進しました。

さらに、アルテミス計画においては、我が国が月面与圧ローバを提供、運用する一方で、米国側が、アルテミス計画の将来のミッションにおいて、日本人宇宙飛行士による2回の月面着陸の機会を割り当てることを盛り込んだ、「与圧ローバによる月面探査の実施取決め」が合意されました。

近い将来、日本人宇宙飛行士が月に降り立ち、このことが、国民の皆様に、宇宙開発の

意義や宇宙産業の発展に目を向けていただく、またとない機会になることを期待しております。

こうした中、政府としては、宇宙技術を支えておられる国内企業の皆様の活力をさらに高めていただけるよう、本年3月、我が国初となる「宇宙技術戦略」を策定したところです。この戦略と、新たにJAXAに創設した「宇宙戦略基金」を活用し、民間企業等による技術開発や商業化を強力に後押ししてまいります。

また、このほかにも、

- ・新たな宇宙輸送を実現する

- 制度環境の整備、

- ・政府による民間サービスの

- 積極的な調達の促進、

- ・準天頂衛星の11機体制に向けた

- 具体的な検討・開発

といった取組を、引き続き進めてまいります。

私も、宇宙政策担当大臣として、皆様とともに、我が国の宇宙活動が一層力強いものとなるよう、関係府省の先頭に立って、宇宙政策を強力に推し進めてまいり所存です。

最後となりますが、2024国際航空宇宙展のご成功を祈念するとともに、本日のご盛会を改めてお祝い申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

5. 講演・セミナー

(ア) 基調講演・特別講演

10月16日（水）午後より下記の記念講演を実施した。（本号別項の詳細報告参照）

	題目	講師
基調講演	我が国の宇宙政策について	内閣府宇宙開発戦略推進事務局長 風木 淳 氏
	航空機産業戦略、防衛・宇宙産業の 取組について	経済産業省製造産業局長 伊吹 英明 氏
	航空政策の現状と今後について	国土交通省航空局長 平岡 成哲 氏
	防衛生産・技術基盤強化のための 施策と今後の方向性	防衛装備庁長官 石川 武 氏
特別講演	日英国際協力	英国航空宇宙工業会代表 (BAE Systems Air社 COO) Ian MULDOWNY 氏

(イ) 主催セミナー、併催セミナー

航空、宇宙、防衛の各分野に加えて、GX、AAMなど新分野のセミナーを開催した。併催セミナーとして、SAE航空宇宙日本シンポジウム、JAXA航空シンポジウム、東京工科大CMCセンターによるCMCに関する国際シンポジウム、チェコ共和国大使館（経済・商務部）によるチェコの航空宇宙産業セミナー、経済産業省による航空機サプライチェーンセミナーも実施した。前回のJA2018からの6年間の航空宇宙産業を取り巻く環境、技術、事業分野の変化と拡大は著しく、これを反映した質、量ともに豊富なセミナーとなった。航空宇宙産業の最新・最先端の情報を多数発信し情報交換の促進を図れた一方、来場者からは、聴講する講演を選択するのが贅沢な悩みだとの高評価を得た。

6. パブリック・イベント

主催者企画として、会期を通しアトリウムに「はやぶさ2」の実物大模型や火星衛星探査機(MMX)の1/2模型などを展示、月面スマートコミュニティLumarnity®をローバでめぐるVR体験なども盛況だった。

最終日10月19日（土）のトレード&パブリックデーには、子供から大人まで楽しんでいただくことを目指し、会議棟、西展示棟アトリウムステージや、屋上展示場では観覧型のコンテンツを、展示ホール内のプレゼンテーション・スペース等では体験型のコンテンツを提供した。

将来の人材確保につながることも目指した航空宇宙の魅力に触れられる各種イベントは、若者を含め一般の方たちに高評価を得た。（個別のイベントについては11月号参照）

7. 所感

国際航空宇宙展は、出展者にビジネス拡大の機会を提供することが大きな目的であり、B to Bミーティングが盛況だったこと、各社の出展ブースにおける商談も活発に実施されている様子が伺えたこと、多数の出展企業・団体から他展示会では得られない情報、商談機会が得られたとの反応を得られたことから、その目的は達成できたと考える。

JA2024のトピックスとして、国際連合工業開発機関（UNIDO）の参加を挙げたい。主出

展者として、新興5か国（インド、モロッコ、南アフリカ、チュニジア、ベトナム）と共同出展頂き、また10月17日には駐日大使館関係者約40人による視察ツアーを主催頂いた。日本の航空宇宙産業が新たな国々と関係を築き、今後の発展につながることを期待している。

また今回、航空宇宙産業に対する理解の増進および若年層の関心喚起等を図ることを目的とした、大学生有志による高校生・高専生向けガイドツアーは、参加した大学生、企業双方から好企画との反応を得た。準備段階で会員企業6社へのインタビューに参加した大学生からは、手応えを感じられ将来につながる貴重な経験だったと好評であり、一方、ツ

アーに参加した高校生への会社、出展ブース、出展製品などの説明を、大学生に任せた会員企業からは、大学生の真剣な取り組み、熱意が感じられる説明がブースに刺激を与えたとの高評価を頂いた。招待した高校・高専の先生からは、生徒の皆さんが航空宇宙業界に触れる良い機会が得られたとの前向きな反応を頂いている。

JA2024が盛況にて無事終了することができましたのは、会員企業皆様のご理解とご支援によるものと心より感謝申し上げます。今回の展示会が、さらなる航空宇宙産業成長の契機となりますことを願っております。

〔 国際航空宇宙展事務局 部長 小林 貴 〕
〔 部長 近藤 泰啓 〕